

作業療法（スタッフ数：6名）

食べる、着替える、お風呂に入るなど、人の日常生活に関わる全ての諸活動を「作業」と呼んでおり、病気やけがで日常生活に支援を必要とする人を支援していきます。



例えば

整形外科疾患

骨折
頸椎症性脊髄症
脊髄損傷 等



認知症

アルツハイマー型認知症
レビー小体型認知症
脳血管性認知症 等



小児

運動発達遅滞
言語発達遅滞
自閉症スペクトラム 等



中枢神経・神経難病疾患

脳梗塞
脳出血
パーキンソン病 等



内科疾患

肺炎
心不全
尿路感染症 等



がん

がんによる機能低下
がん治療による合併症
緩和ケア 等



当院の作業療法部門では、骨折や外傷、認知症、発達障害、脳血管障害、がん等により日常生活に手助けを必要とする人を支援しています。

骨折や外傷に対しては運動器リハビリテーションを行っています。上肢や手指の骨折だけでなく、頸椎症や圧迫骨折、下肢の骨折など身幅広い運動器疾患を対象としています。身体機能の向上だけでなく、日常生活に必要な動作の獲得を目標に介入しています。

入院中の認知症患者様がより良いケアを受けることができるよう、病棟看護師と協力して「脳活性化リハビリテーション」を行っています。脳活性化リハビリテーションとは、非薬物療法の一環を指します。創作・表現活動や、集団で行える運動課題を使い、認知症の進行を防ぐ取り組みをしています。

発達障害を抱える就学前のお子様に対しては、外来リハビリで介入しています。遊びを通じた能力の向上や、作業活動を通じた支援や生活指導を行っています。必要に応じて、新版K式発達検査やフロスティック視知覚検査、ADOS-2（自閉症診断観察検査）等を実施しています。

コメディカルスタッフとして活動

DCT 回診・キャンサーボード・外科カンファにチームの一員として参加